

# 輸入粗飼料の情勢

全酪連  
購買生産指導部  
購買推進課

## 北米コンテナ船情勢

現在も北米西海岸航路は乗継航路を含めて主要な本船スケジュールに乱れが発生しており、状況は好転していません。中でもPNW（太平洋岸北西部）では頻繁にスケジュール変更が発生し、カットオフ（輸出港のコンテナヤードへの搬入期限日時）直前に本船スケジュールが早まるケースが多発しており、突然の変更に輸出業者も作業が追いつかず船腹予約を後ろ倒しにする状況が増加しています。本船の船腹予約状況についても満船が続いており、一度スケジュールを後ろ倒しにしても翌週の船腹確保ができず、数週間後の船腹予約となることも多く、貨物の遅れに滑車をかけている状況です。

降水量不足の懸念があるパナマ運河では引き続き通行する船舶の通航隻数の制限を行っていますが、雨季に入る4月末までは現在の制限を継続する見込みです。

スエズ運河近くの紅海ではイエメンの親イラン武装組織フーシ派による商業船への攻撃が続き、過去3ヶ月で40隻以上が標的となっています。スエズ運河経由の航路の運航再開を検討していた一部の船会社も状況が長引くと判断し、喜望峰ルートで欧州と中東を結ぶ新航路を開始するなどスエズ運河を経由せず、現況を改善する対策を行っていますが、引き続き世界の物流状況の回復までは時間がかかる見込みです。

## ビートパルプ

【米国】

主産地であるノースダコタ州やミネソタ州では例年より温暖な気候が続いています。2月は記録的な高温に見舞われたことで、屋外で保管されている砂糖大根の品質劣化が進み、廃棄量が増えたことでビートパルプの生産量は減少する見込みです。3月も温暖な気候が続くことが予測されており、更なる生産量の減少が懸念されています。

## アルファルファ

ワシントン州やオレゴン州といったPNW地域（太平洋岸北西部）では引き続き、上級品の引き合いが強い状況が続いています。一部の生産農家では降雨や降雪により品質が劣化した低級品在庫を抱えていますが、輸出向けには適さない品質のため米国

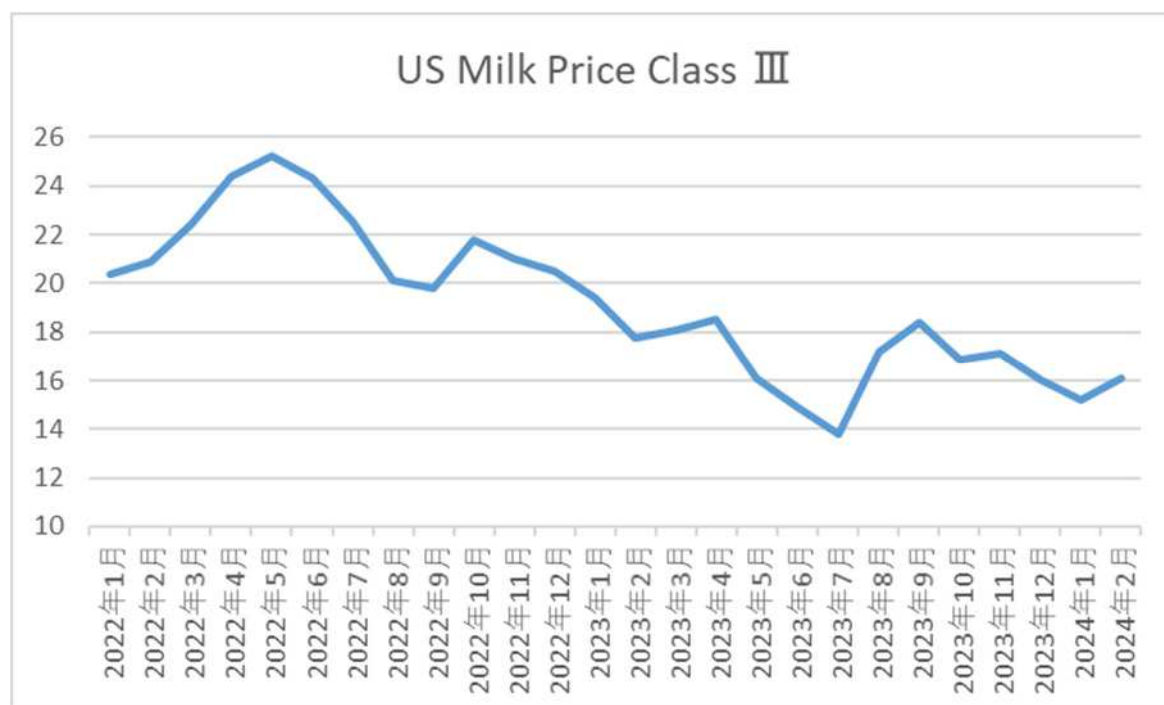
内酪農家向けに出荷される見通しです。

カリフォルニア州南部のインペリアルバレーでは、2月以降も降雨が続いており、1番刈の収穫作業に遅れが発生しています。品質は降雨により刈取り適期を逃した影響で、中級品の発生が多くなる見通しです。産地当局から発表された、2月15日付けのインペリアルバレーにおけるアルファルファの作付面積は前年同期比96%となる146,577エーカーとなっています。

中国向けも昨年は上海港に多くの在庫を保有していましたが、在庫消化に目途が立っています。現在、中国乳価は低迷しており、今後すぐに引き合いが強まる可能性は低い見通しですが、今後の動向には注視が必要です。

## 米国乳価について

USDA（米国農務省）の発表によると、米国酪農家の乳価の指標となるClass III乳価は2022年5月には100ポンドあたり25.21ドルまで上昇しましたが、アジア諸国やメキシコでの需要減退により米国産乳製品の輸出が減少していることが影響し、現在では100ポンドあたり16.08ドルとなっています。乳価の低迷により米国内の酪農家は積極的に買付をすることができず、アルファルファの産地相場は落ちています。中東やサウジアラビアといった他国の動向も含めて注視が必要です。



出典：USDA 2022年1月～2024年全米平均クラスⅢ乳価

単位：米国ドル/100ポンド

## スーダングラス

24年産の播種開始は3月上旬の見込みです。24年産の作付面積は23年産価格軟化や日本の需要減少により、生産農家の意欲も低下しているため減少すると予想されています。生産農家も上昇した生産コストを補うために品質重視ではなく、収量重視で考えていることから中～低級品の生産が主になるのではとの声も出ています。

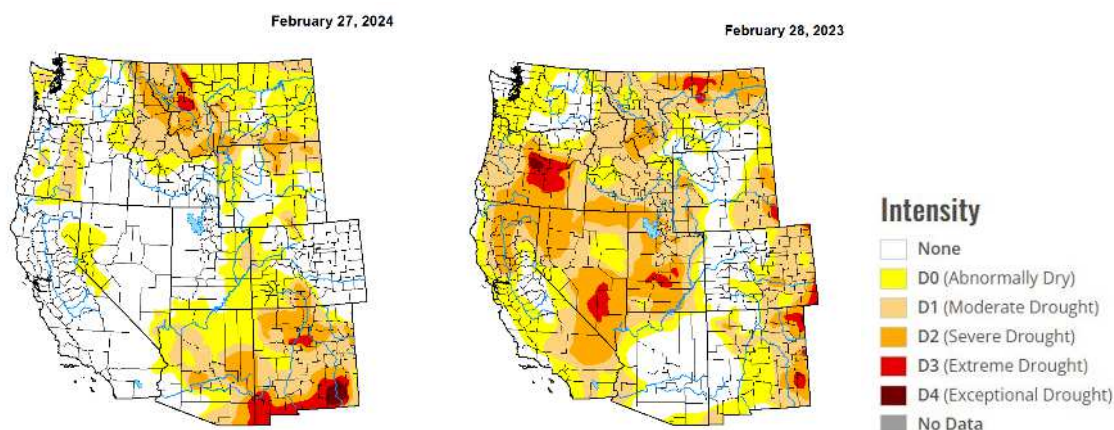
日本向けの需要に対しては未だに22年産の旧穀在庫を抱えている輸出業者もいるため供給力に懸念はないと思われます。

## クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

23年産の相場価格はミード湖の水位上昇による水不足の解消、干ばつ状況も緩和されたため軟調に推移しました。米国当局が2月27日に発表した米国西海岸における干ばつ状況は昨年同時期と比べて改善しています。

カリフォルニア州南部インペリアルバレーの灌漑局から発表となった2月15日時点の作付面積は21,378エーカー（昨年同時期22,014エーカー）、前年同時期比97%となっています。依然として米国内需からの引き合いは少ないものの、日本や韓国向けの出荷は安定している状況です。24年産の1番刈収穫に向け圃場への散水作業が3月中下旬頃より開始される見通しです。

ファロープログラム（休耕地政策）について現地の最新情報を総合的に判断すると、現時点で実施するかは不透明な状況です。仮に実施された場合でもこの政策に参加するかは生産農家の任意であり、また産地価格を形成する要素は他にも多数あることから、ファロープログラムが産地相場の高騰に直結するとは言えず冷静に情勢を見ていく必要があります。



（西海岸の干ばつ状況の比較。色が濃くなるほど、干ばつ状況が厳しい。）

左：2024年2月27日 右：2023年2月28日

出典：National Drought Mitigation Center

## ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

オレゴン州主要積み出し港のポートランド港で慢性的な空コンテナ不足による船積み苦戦により一時的に日本からの引き合いが増加しましたが、現在は軟化しています。

韓国向けについては韓国国内の飼料費や生産資材費の上昇により肥育農家の経営状況も芳しくないため、輸入ストローの代替として国産稲わらを使う動きがあり、需要は減退しています。産地については降雨もあり土壌環境も良好で、24年産の作付面積は増加する見通しです。

## カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区、南部レスブリッジ地区では1月は大寒波の影響で気温が下がりましたが、2月は春先並の気候となりカナダ国内酪農家向けの越冬用需要が軟化したことから、引き合いは例年より少なくなっています。カナダ国内と輸出向け需要は減退していることから24年産の作付面積は減少する見通しです。

## 豪州産オーツハイ・ウィートストロー

23年産オーツハイの作況は全豪全体で降雨が少なかった影響により大半が上級品の発生で、中～低級品の発生は限定的となりました。現在、豪州では猛暑や豪雨、強風といった異常気象が続き、長時間の停電が発生している地域もあります。また、南東部のビクトリア州では猛烈な熱波に見舞われたことで山火が発生し、避難指示が出るほど甚大な被害が発生しています。

輸出需要は安定していますが、昨年のランピースキン病（全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少などの症状が出る伝染病）の流行で需要が減退した韓国からの引き合いが回復しています。豪州の各輸出業者の輸出認可が更新された中国向けの輸出量についても月を重ねるごとに増加しており、今後の動きには注視が必要です。

## 豪州ストライキについて

Maritime Union(港湾労働者組合)とDP World terminal(港湾施設)間での労使交渉は2月2日に原則4年間の新たな協定を締結し、終了しています。ストライキによる影響で本船スケジュールの乱れが懸念されていましたが、豪州国内での港湾作業が通常運転に戻ったことで、入船が早まるケースも出てきています。

以上